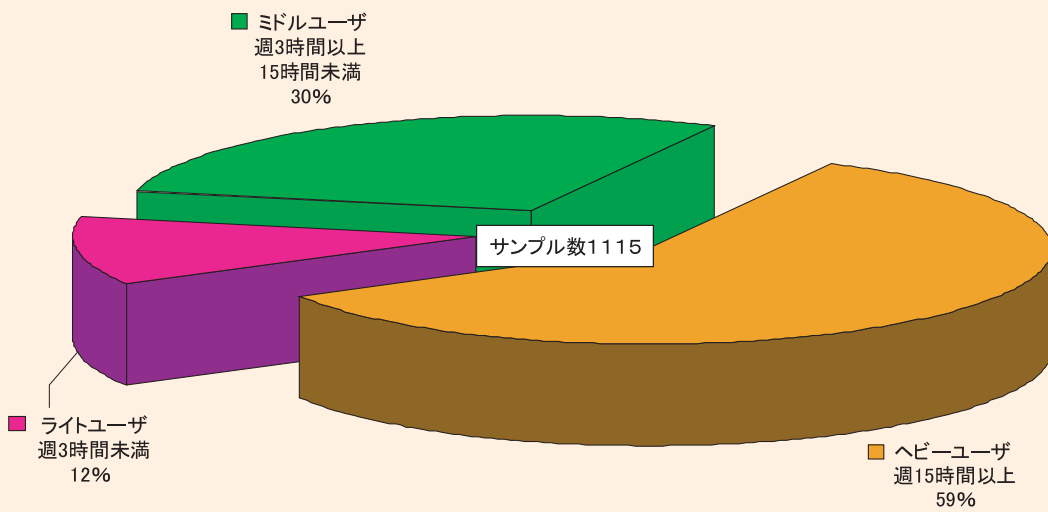


1 サンプルの属性

1-1 インターネット接続の利用時間

サンプルは、これもWebアンケートのサンプルにみられる一般的な特性としてヘビーユーザに偏りがある。国民の一般的な利用率に合わせる調整はしていない。

○ インターネット接続回線の一週間の利用時間 ※無回答を除く

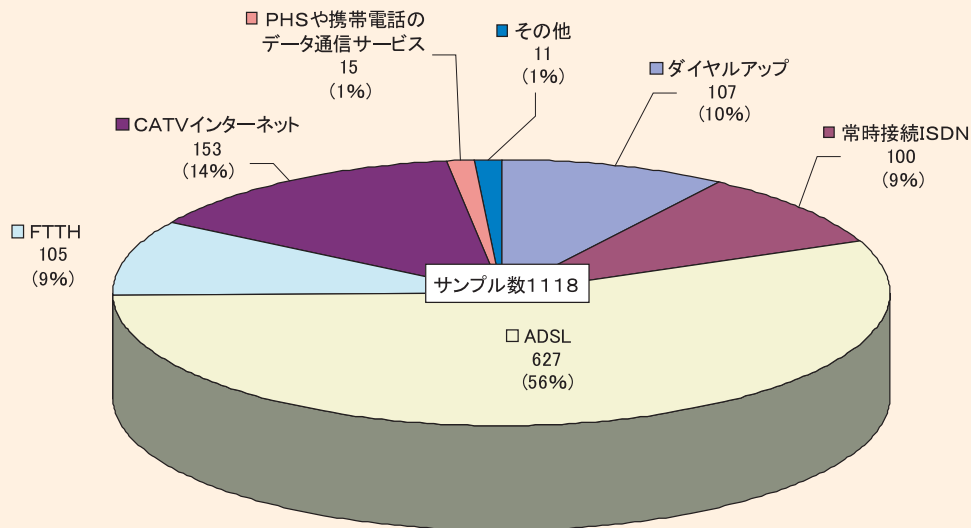


ライトユーザ			ミドルユーザ		ヘビーユーザ			無回答	合計
30分未満	30分~1時間未満	1時間~3時間未満	3時間~10時間未満	10時間~15時間未満	15時間~20時間未満	20時間~30時間未満	30時間以上		
5人	25人	100人	186人	144人	151人	169人	335人	3人	1118人
0.4%	2.2%	8.9%	16.6%	12.9%	13.5%	15.1%	30.0%	0.3%	100%

1-2 接続回線の選択比率

ダイヤルアップが10%、常時接続ISDNが9%で、サンプルは、ブロードバンドに偏っている。これもWebアンケートのサンプルにみられる一般的な特性で、国民の一般的な利用率に合わせる調整はしていない。

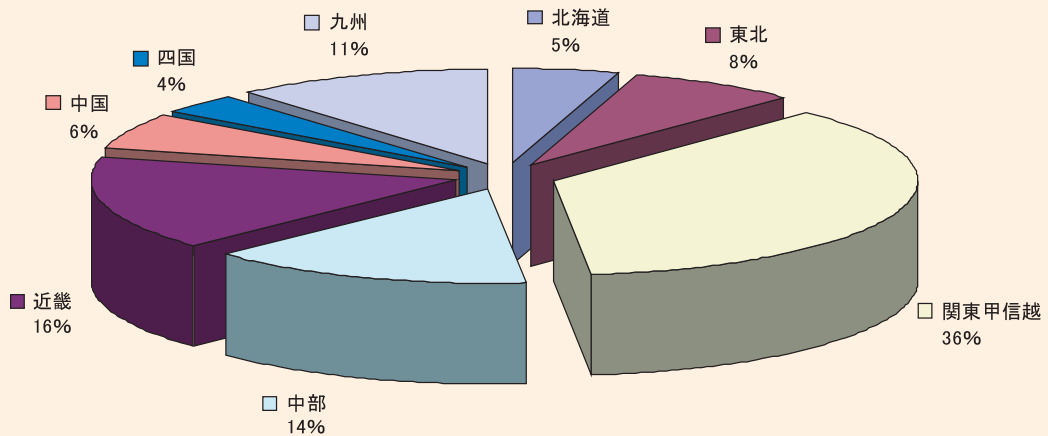
○ 選択回線別のサンプル分布



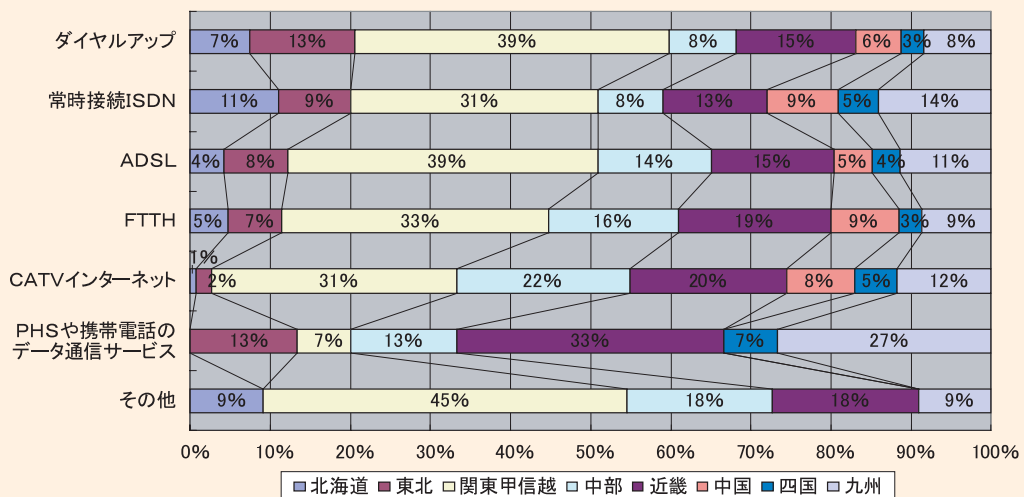
1-3 居住地域

居住地域については、可能な限り現実の人口比率と整合するよう調整。地域ごとに選択回線別の構成比を調整するようなことはしていない。

○ 居住地域別のサンプル分布



○ 利用回線ごとの地域別サンプル分布

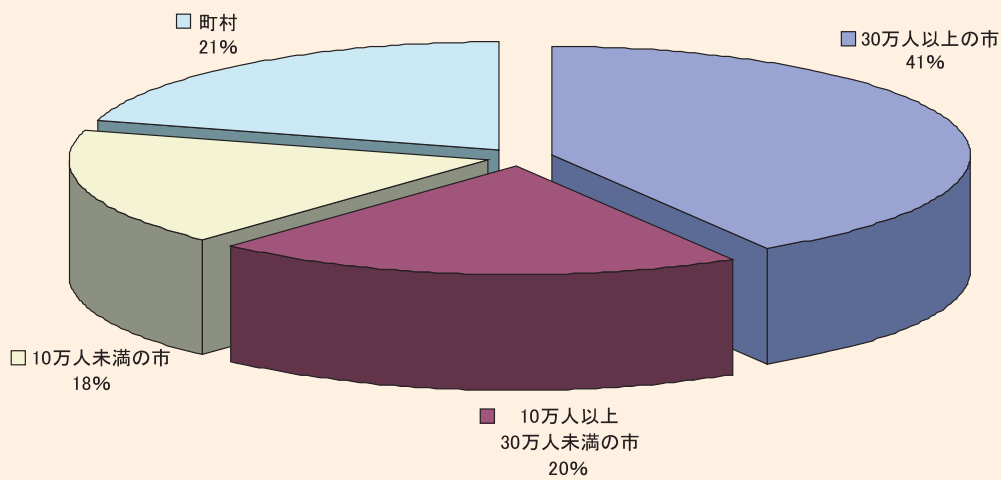


(※) 平成15年度電気通信事業分野の競争状況に関する個人利用者アンケート調査（属性データ及びQ1-2）の回答に基づき作成。

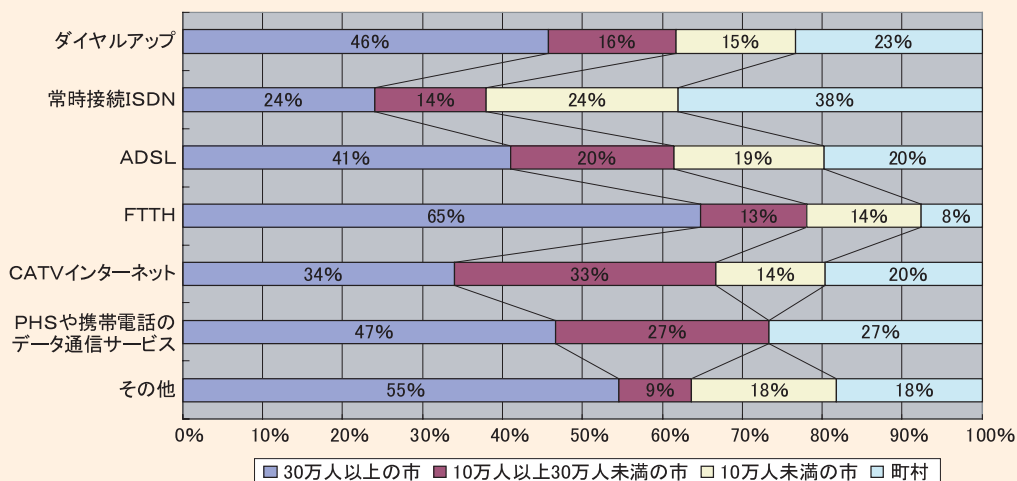
1-4 都市規模

都市規模についても、現実の人口比率と整合するよう調整。都市規模ごとに選択回線別の構成比を調整するようなことはしていない。

○ 都市規模別のサンプル分布



○ 利用回線ごとの都市規模別サンプル分布

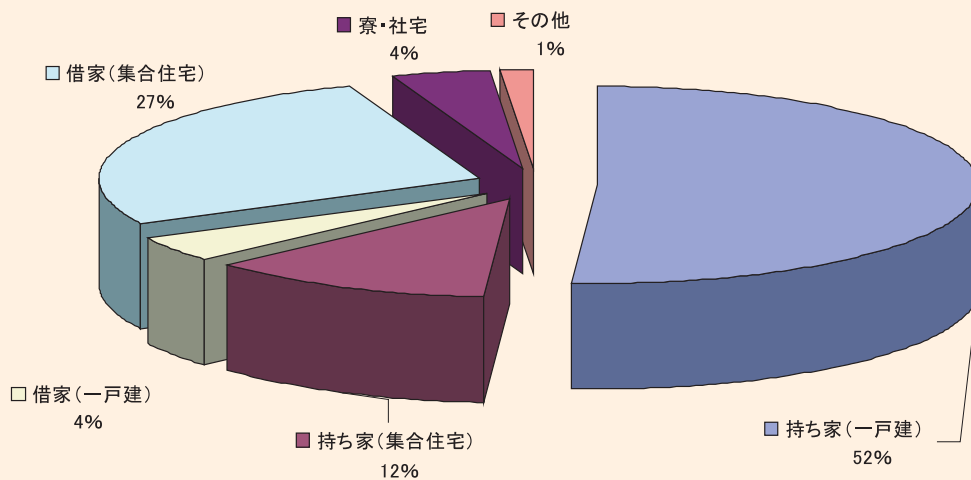


(※) 平成15年度電気通信事業分野の競争状況に関する個人利用者アンケート調査(属性データ及びQ1-2)の回答に基づき作成。

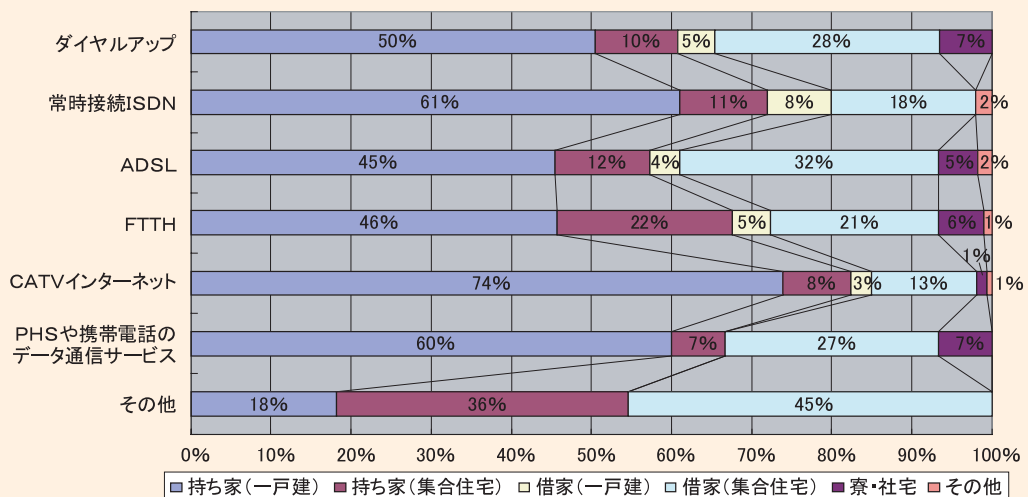
1-5 自宅の種類

持ち家か借家か、一戸建か集合住宅かは、個々のサンプルの属性として把握。ただし、属性に基づくサンプルの調整は行っていない。

○ 自宅の種類別のサンプル分布



○ 利用回線ごとの自宅の種類別サンプル分布

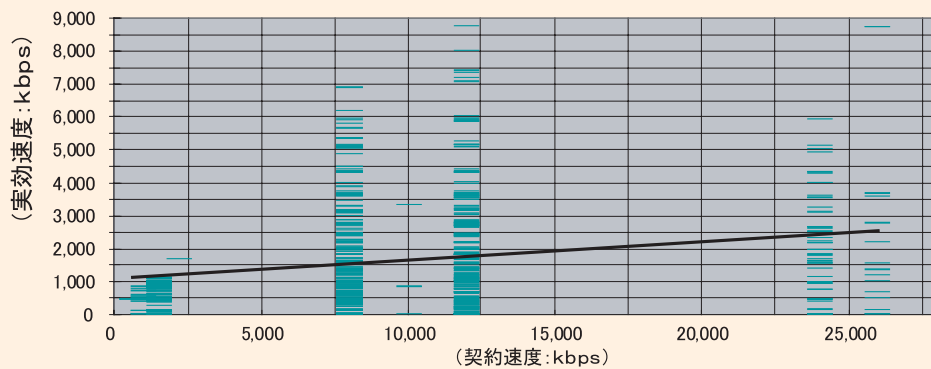


(※) 平成15年度電気通信事業分野の競争状況に関する個人利用者アンケート調査(属性データ及びQ1-2)の回答に基づき作成。

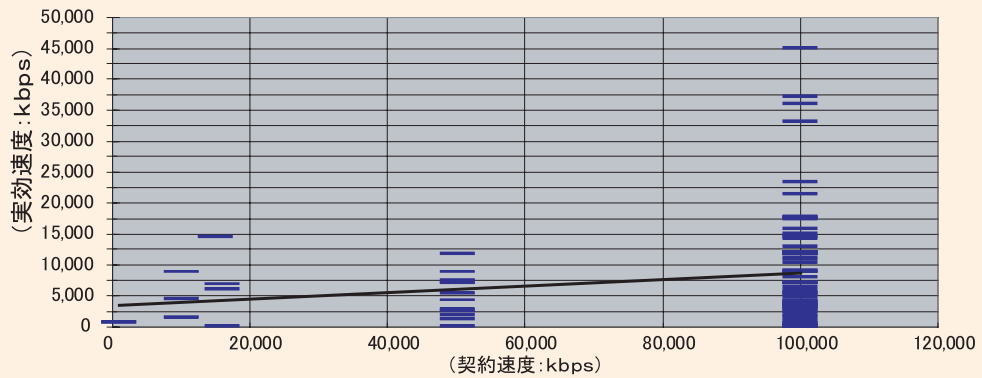
1-7 契約(名目)速度と実効速度(サンプルの分布)

ADSL、FTTH、CATVインターネットいずれについても、契約(名目)速度と実効速度には隔たりがある。特に、ADSLは、契約速度に近い速度が出ている利用者と、そうでない利用者が広い幅に分布。

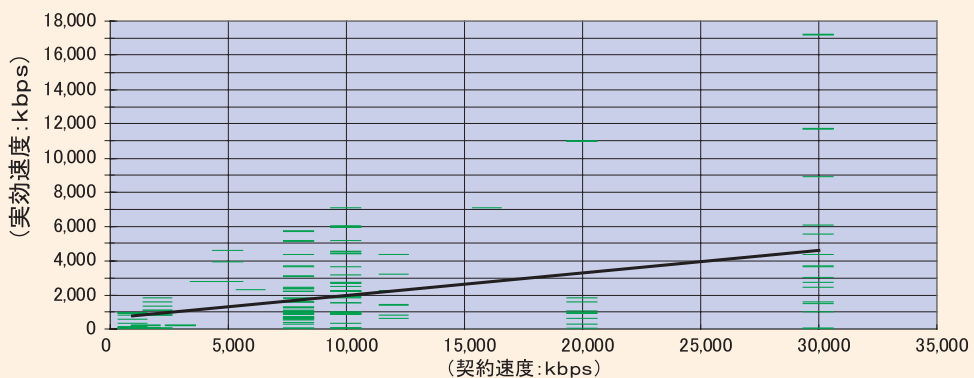
○ ADSL(契約速度/実効速度)



○ FTTH(契約速度/実効速度)



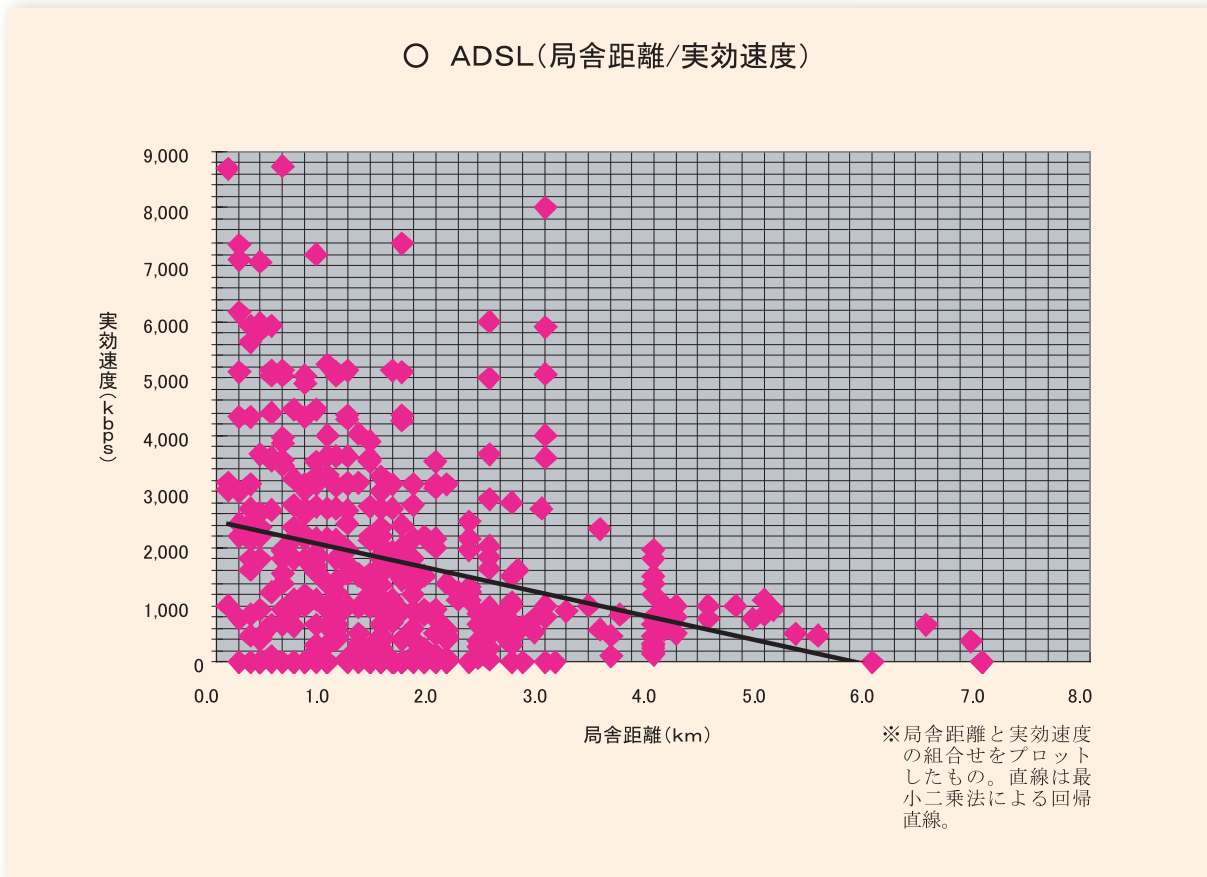
○ CATVインターネット(契約速度/実効速度)



(※1) 平成15年度電気通信事業分野の競争状況に関する個人利用者アンケート調査(Q1-14)の回答に基づき作成。
(※2) 契約速度と実効速度の組合せをプロットしたもの。契約速度は、例えば、ADSLでは8Mや12Mなどのサービスメニューに対応。直線は最小二乗法による回帰直線。

1-8 局舎距離と実効速度の関係(サンプルの分布)

局舎からの距離が遠くなるほど、ADSLの実効速度は低下している。

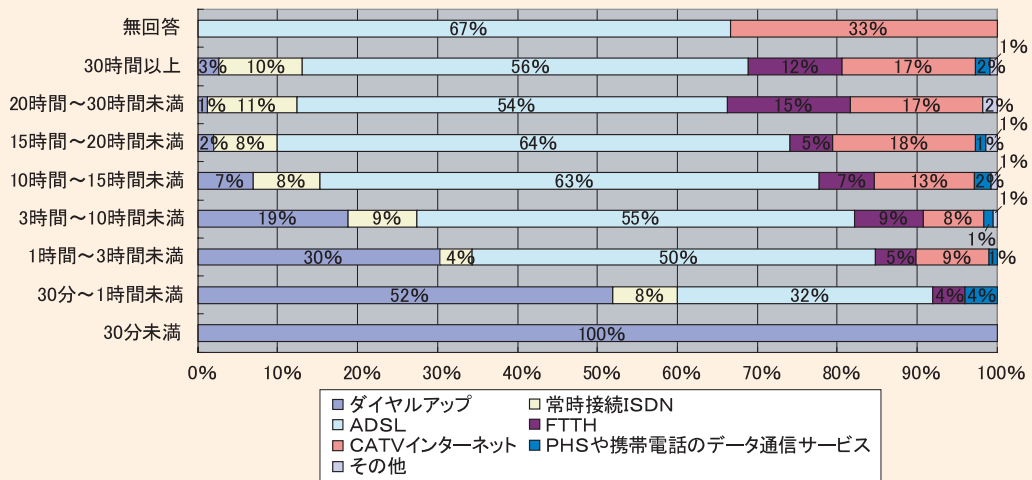


(※) 平成15年度電気通信事業分野の競争状況に関する個人利用者アンケート調査(Q1-14及びQ1-15)の回答に基づき作成。

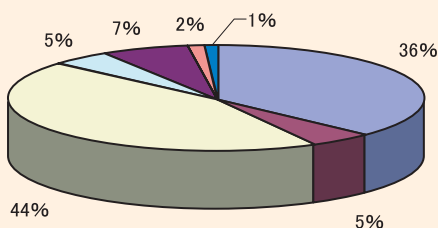
1-9 利用時間と回線種類①(利用時間別の回線選択)

サンプルは、常時接続利用者に偏っているが、それでもライトユーザに限るとダイヤルアップは1/3以上を占めている。利用時間が増えるにしたがって常時接続サービスの利用率は拡大。ライトユーザの利用するインターネット接続回線と、ヘビーユーザとミドルユーザのそれでは構成が大きく違う。

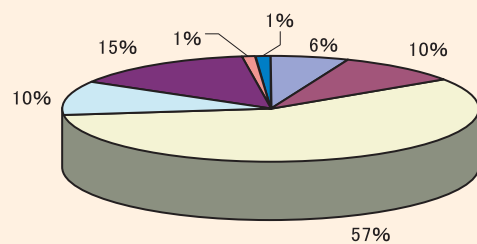
○ インターネット接続回線の一週間の利用時間



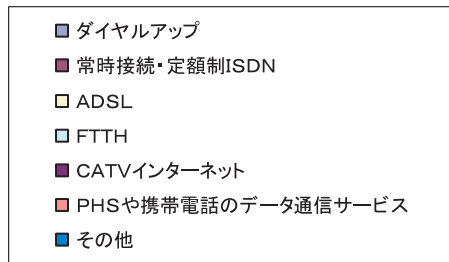
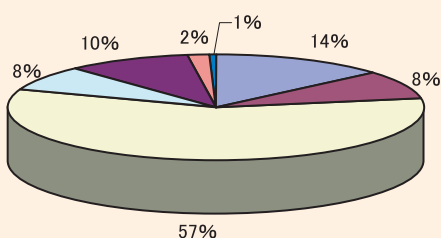
○ ライトユーザ(3時間未満)



○ ヘビーユーザ(15時間以上)



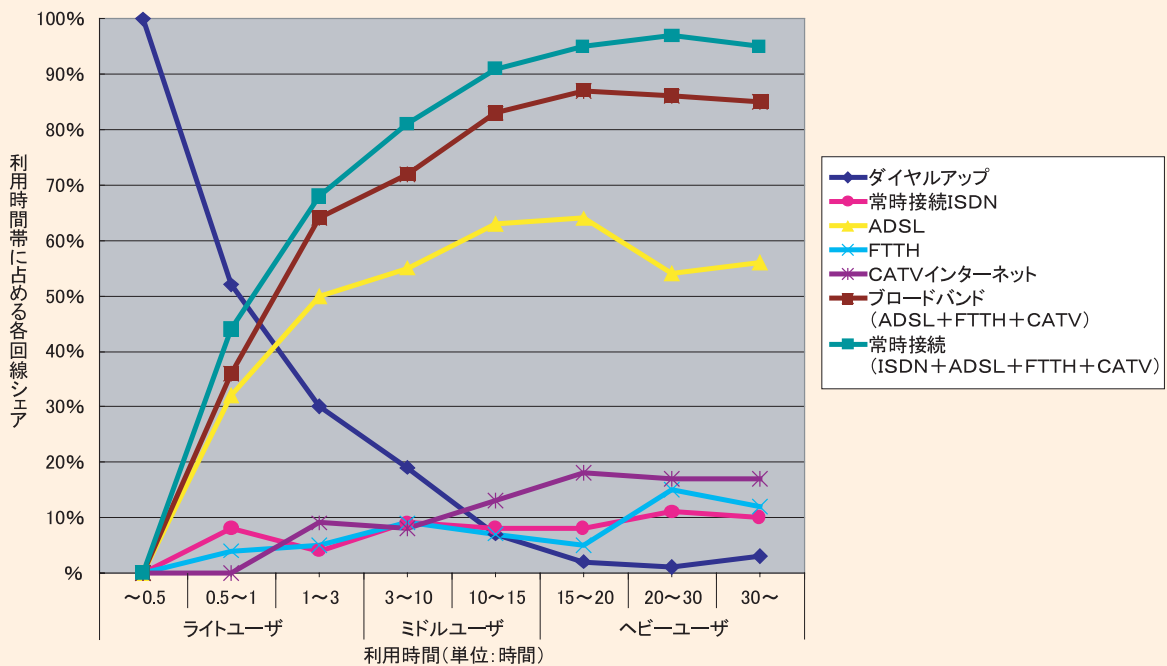
○ ミドルユーザ(3時間以上15時間未満)



1-10 利用時間と回線種類②(利用時間の変化と利用回線の変化)

回線の種類は、利用時間との相関が顕著。例えば、ダイヤルアップは利用時間が延びると顕著に低下。常時接続あるいはブロードバンドは10時間を超えると80%を超える。常時接続ISDNが3時間を超えるとほぼ10%程度で安定しているのは、高速性を必要としないメール等のアプリケーションを頻繁に利用している利用者や、ブロードバンドが利用できない環境下でやむなく常時接続ISDNを利用している利用者の需要が底堅い可能性。

○ 利用時間の変化にともなう利用回線の変化

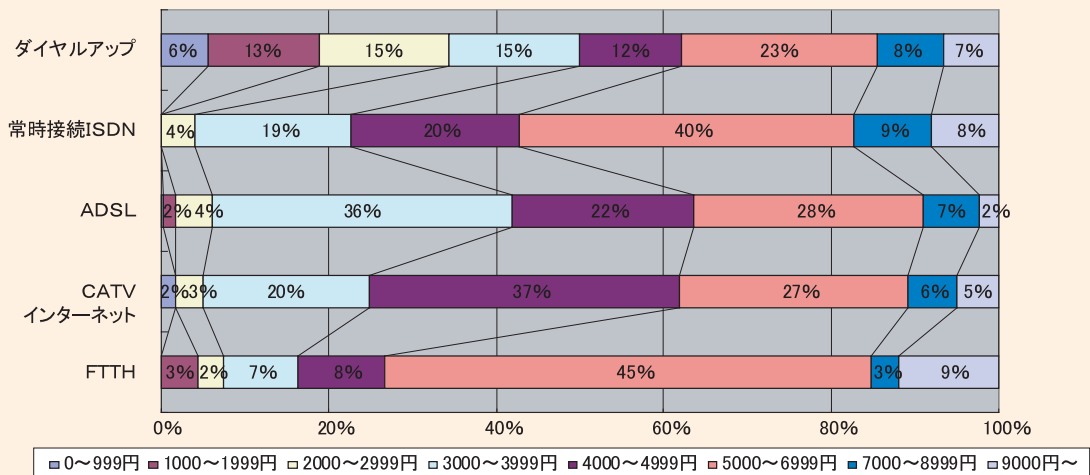


(※) 平成15年度電気通信事業分野の競争状況に関する個人利用者アンケート調査(Q1-7及びQ1-2)の回答に基づき作成。

1-11 月額料金

高速なサービスほど一般に料金がいが、常時接続ISDNの料金負担が大きい。

○ 実際の月額料金支払額(現在利用中の回線別)



○ 実際の月額料金支払額

